

死を待つ医師が僧侶に託す 人間愛の遺書

「あなたはどこで死にますか」



ビデオ撮影・編集：竹田美壽恵（関西单身けん） 上映時間：51分

【竹田さんから】今年3月7日の毎日新聞夕刊に「1人示す「充実の最期」 がんの医師、家族と離れる決意」と大きな見出しで神代（こうじろ）尚芳医師（67）のことが紹介されました。記事によると、神戸市須磨区の病院長を務め、在宅医療で約200人のがん患者の死をみとってきた神代さんががんになり、親交が深かった川西市の岡本寺（こうほんじ）の平田信活住職に自身の葬儀について相談されたとき、寺での講演を依頼され、「生きとったらな」という条件で引き受けた、ということでした。私はさっそく岡本寺に電話し、講演会への参加とビデオ撮影の許可をお願いし、ご住職から「参加者の迷惑にならなければ」との返事をいただきました。

3月20日に岡本寺で行われた講演会は、神代さんが脳への転移がわかって手術をされたあとだったため、平田住職が病院に出向かれて神代さんにインタビューされ、その様子を萩原敏さんが撮影し、ビデオにまとめられたものが上映されました。

その後、5月20日の毎日新聞の夕刊に「最期は自宅で自ら貫く 家族に感謝の涙残し」という見出しで、神代さんが5月17日にご自宅で亡くなられたという記事が大きく掲載されました。

神代さんは、死を「人生の完成」ととらえ、患者が自宅で充実した最期を迎えるための支援を約20年にわたり続けてこられたそうです。3月20日にお聞きした神代さんのお話は、一つひとつ重みのある言葉で、私たちに今後の課題を示してくださいましたので、在宅訪問の医師・上農（かみのう）哲朗さんのお話もあわせて、当日の講演会の様子をビデオで紹介いたします。

- 日時：**11月10日（日）午後1時半～4時半**
- 場所：**ドーンセンター 4階 調理室**

（京橋天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅
1番出口から東へ徒歩約5分）

- 参加費：会員 600円、非会員 800円
- 主催・問い合わせ先：関西单身けん
（ひとりで生きるために、単身者の生活権を検証する会・関西）吉田
TEL/FAX 06-4980-1128
E-mail:ptokeyi04@s5.dion.ne.jp

